

クールジャパン（CJ）政策の課題

● 関係者の有機的連携が不十分

- ✓ 各地で行われている取組をネットワーク化することで、異業種間・地域間の連携を促し、CJの取組の持続性を確保
- ✓ CJの狙い・着眼点を共有し、間口の広さと奥深さを追求

● CJ政策・事業の遂行に必要な基礎的情報の不足

- ✓ 世界の目線を意識し、プロダクトアウト志向から脱却

中核的機能の必要性

● 民間におけるCJの取組の中心であり、内閣府と協働する相手方

- ① 関係者のネットワーク化
- ② CJに関する情報発信・情報共有のプラットフォーム
- ③ CJ基礎情報（例：大きなトレンド、教訓反省）の収集及び分析
- ④ アンバサダー等の推薦や取組の認証・顕彰
- ⑤ 政府（内閣府）に対する政策提言

中核組織の位置づけ（イメージ）

中核的機能からの提案も踏まえ、知財本部（全省庁）、CJ戦略会議（関係省庁）を通じ、各省の施策に反映



内閣府（政府）は、以下のような取組を通じ、中核組織がハブとしての役割を發揮できるような環境を整備。

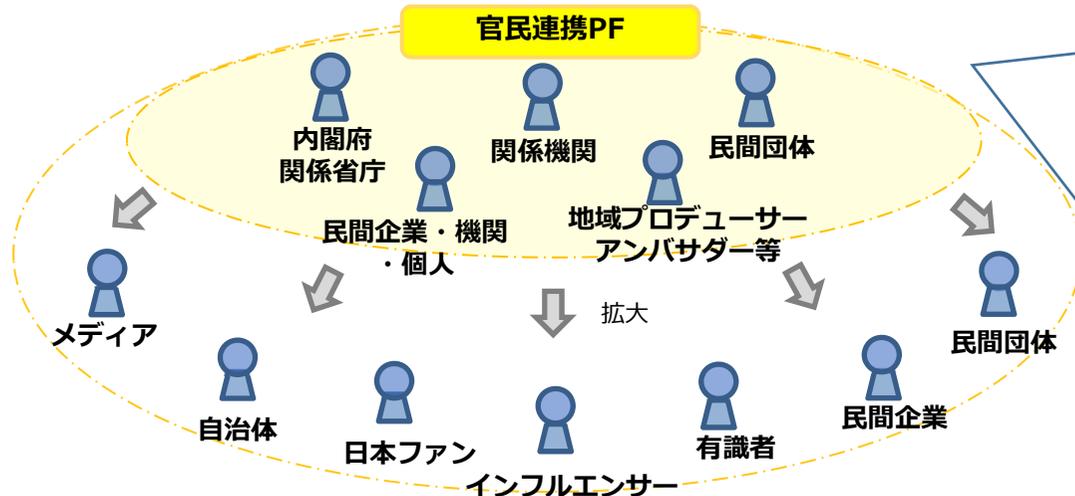
- 中核組織からの政策提言について、知財本部等の枠組みを通じ、政府全体の施策に反映
- 中核組織との日常的な意見交換や議論を通じ、CJの取組に関する国全体としての共通認識を確保
- 中核組織からの推薦に基づき、アンバサダーや地域プロデューサーを任命



データの共有、知見の提供、要望の提出

方向性や考え方の共有、ネットワーク化、基礎的情報の共有、認証・顕彰

- 関係省庁の協力も仰ぎつつ、官民連携PFを発展・強化（名称変更はありうる）し、CJに関するネットワークを拡大
- 中核組織は、その事務局的なイメージ



中核組織は、官民連携PFを活用しつつ、以下のような取組を通じ、CJにおける官民連携の中心（ハブ）としての役割を果たす。

- 内閣府に対する政策の提言
- アンバサダーや地域プロデューサーを内閣府に推薦
- CJの観点から優れた取組について認定・表彰（又は優れた取組を内閣府に推薦し、内閣府が認定・表彰）
- 基礎的データを収集分析し、幅広く共有
- 国内外における取組を有機的につなげることで、緩やかなネットワーク化
- アンバサダー等を活用した発信
- 海外への効果的な発信に必要なアドバイス